



JAPIC会長
進藤 孝生
Kosei SHINDO

JAPICについて

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(Japan Project-Industry Council: JAPIC)は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際協力の促進と産官学の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済・環境・資源・エネルギー、教育・国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目指して活動して参りました。現在43業種約220社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。

講座開設趣旨

神戸大学とJAPICとの連携協定に基づき、本リレー講座を開講します。

世界は、新興国の急成長や情報通信技術の目覚ましい進歩、金融市場のボラティリティ化などに伴い、グローバル化が著実に進展する一方、100年に一度と言われる未曾有のコロナ禍や米中両国の対立、更にはロシアによるウクライナ侵攻、ハルスチナ問題等によって、今や分断の危機に直面しています。

このような激変する世界に立ち向かっていく学生の皆さんには、「人・社会・国に貢献するとは? 国際社会に対して果たすべき役割とは?」という高い課題意識を持って研鑽に励むことを期待します。その為にはこの講義で説く『社会基礎学(グローバル化人材に不可欠な教養)』を習得することが大変重要であると考えます。

本リレー講義では、グローバル人材に不可欠な教養とは何かを探索し、全学部生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力の向上をサポートします。

学生に期待すること

本リレー講義の副題である、「激変する世界のなかで、日本はどうあるべきなのか?」について、第一線で活躍する社会人講師の話を聴き、強い関心と好奇心を持って考えて下さい。そして、先の見通しづらいグローバル社会で自らができるか、そのためには何が必要か、積極的に学び、考えることを期待します。

主 催／神戸大学 産官学連携本部
一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)

サポート／神戸大学東京六甲クラブ

問い合わせ先／神戸大学研究推進部連携推進課 連携推進グループ

電話番号: 078-803-5427

Email: ksui-sangaku@office.kobe-u.ac.jp

JAPIC連携 産業界・官界トップリーダーによる

連続リレー講座2025

激変する世界のなかで、日本はどうあるべきなのか?
これから社会に出る学生は何を学び、何を身につけるべきか?

神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)との連携協定に基づき、産業界・官界のトップリーダーがオムニバス形式で講義します。
今、企業でどんな人材が求められているのか? 学生に何を身に付けてほしいのか?
土曜日を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。

科目名 **社会基礎学** (グローバル人材に不可欠な教養)

開講時期 令和7年度 第2クォーター **土曜日10:40▶16:40** 全6回
(初日と最終日は13:20~16:40)

科目区分 教養科目(総合系) [2単位]

登録受付締切: 5月9日(金)
定員150名

詳細(履修登録等)



世界に挑め!!



社会基礎学【2025年度】

第1回 6/14(土)

13:20-16:40

[導入講義] 連続リレー講義の意味・意義と狙い

PD・コーディネーター

JAPIC 常務理事
林田 康洋

プロフィール：京都市出身。1993年新日本製鐵（現日本製鉄）入社。営業（厚板）、支店総務等を担当。勤務地は、堺製鉄所（大阪）を皮切りに、東京、名古屋、大畑を転戦。最後の5年間はプロジェクト開発部にて海外インフラ案件を担当。東南アジア、南アジア、中東等にも出張。2022年からJAPIC常務理事。趣味は、山登り、京都探訪（京都検定2級取得）、読書、少しだけ釣り。

PD・パネリスト

住友生命保険相互会社 取締役代表執行役専務
柴森 剛志

プロフィール：1964年兵庫県尼崎市生まれ。1987年に神戸大経営学部を卒業後、住友生命保険相互会社に入社。海外駐在、企画室長、山梨支社長、人事部長、営業企画部長等幅広く職務を経験。2017年から2023年まで執行役として海外事業を担当。米田子会社の取締役も兼ねる。2023年より取締役代表執行役（事務サービス部門担当）。趣味はスキー、ゴルフ、読書。★本学出身者

パネルディスカッション

激変する世界のなかで、日本はどうあるべきなのか？
これから社会に出る学生は何を学び、何を身につけるべきか？

PD・パネリスト

双日株式会社 執行役員 広報、IR、サステナビリティ推進担当本部長
遠藤 友美絵

プロフィール：1991年日商岩井（現双日）入社。キャリアの多くは旧社で、株式市場との対話・リレーション構築に従事。海外研修として2008年米国に渡り、2010年5月Golden Gate大学マーケティング修士課程修了。双日IR課長、人事総務部グローバル・ダイバーシティ推進課長、IR室長を経て、2021年4月執行役員。2024年4月より広報、IR、サステナビリティ推進担当本部長。

導入講義

バリュースクール／産官学連携本部 准教授
鶴田 宏樹

プロフィール：神戸大学自然科学研究科修士。博士（農学）の学位も取得後、神戸大学共同研究開発センター（現・産官学連携本部）の助手、准教授を経て、2020年から現職。趣味は、音楽活動、音楽鑑賞。座右の銘は「己克己制全」。大阪府生野町。★本学出身者

第2回 6/21(土)

10:40-12:10

経済安全保障政策について

昨今の地政学上の変化を踏まえた経済安全保障政策について、解説を行います。具体的には、経済安全保障推進法に基づくサプライチェーンの強化策、デュアルユースを前提とする研究開発の推進、我が国の基幹インフラの保護、特許保全の取組を説明いたします。併せて、2025年5月に施行されるセキュリティアランス制度について、解説いたします。

内閣官房国家安全保障局／内閣府
経済安全保障担当 内閣審議官 佐々木 啓介

プロフィール：1993年4月通商産業省入省。1999年10月ハーバード大学 US-Japan Program 調査員。2000年5月カナダ政府外務貿易省。2001年6月経済産業省。2024年7月現職。愛知県出身。

13:20-14:50

成熟都市で価値を増すパブリックスペース
—58 Public Spaces in Tokyo—

2050年には世界の人口の約70％が都市に居住する。都市が多様化する中で、だれでもアクセスが可能で様々な活動やイノベーションが展開されるパブリックスペースの重要性が高まっている。これからの都市づくりに向けて、良質なパブリックスペースづくりが鍵になることは間違いない。成熟化、高密度化してきた東京で、いかにして良質なパブリックスペースが生まれたのか、それを紐解くことが、これからの日本、世界の都市づくりに大きな示唆を与える。

株式会社日建設計 取締役常務執行役員
都市・社会基盤部門統括 奥森 清喜

プロフィール：1992年、日建設計に入社。以来、国内外の都市マスタープラン、都市開発プロジェクトを数多く経験。東京駅（グランルーフ）、渋谷駅、新宿駅、品川駅など、代表される駅まち一体型開発（Transit Oriented Development：TOD）に携わり、中国など多くの海外TODプロジェクトを担当。

15:10-16:40

リテイルメディア時代の到来

ECやデジタルを活用し実店舗の機能を拡張させる試みは米国を中心に加速した。GAFAに顧客を奪われた既存リテラーは、今日では機能を劇的に変容させ再成長の軌道に乗り始めている。現在の米国のリテール企業やファミリーマートの最新戦略も交えながら解説する。

株式会社ファミリーマート
代表取締役社長 細見 研介

プロフィール：1962年大阪生。神戸大学卒業後、伊藤忠商事入社。2014年ブランドマーケティング部門長。2017年食品流通部門長。その後、新設の第8カンパニープレジデントとしてリテール関連の新ビジネスを指揮。2021年ファミリーマート代表取締役社長に就任。趣味：国内外の街歩き ★本学出身者

第3回 6/28(土)

10:40-12:10

モビリティ革命と
MaaS（マース）

モビリティ革命の本命といわれる「MaaS: Mobility as a Service(マース)」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行える、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスがMaaSです。

本講義では、移動革命の最新動向やMaaSが私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

一般財団法人計量計画研究所
理事 兼 研究本部企画戦略部長 牧村 和彦

プロフィール：1990年一財計量計画研究所（IBSI）入所。東京大学 博士（工学）。愛知県出身。都市・交通のシミュレーションに従事。専攻のモビリティビジョンを描くモビリティデザイナー。代表的な著書に、「MaaSが都市を変える、学芸出版（不動産協会賞受賞）」、「Beyond MaaS—日本から始まる新モビリティ革命（日経BP、共著）（交通図書賞優秀賞）」等多数。

13:20-14:50

地域創生の処方箋
～交流人口拡大に向けて～

日本の地域では人口減少、産業衰退、地方財政悪化、という「三重苦」が進行しています。出生率等人口ロビラッドの構造的問題にも向き合う必要はありますが、直ちに取組めることとして、①「交流人口」の増加によって地域に人流と経済を呼び込むこと、②今ある「地域資源」をしっかりと活かしていくこと、③「官民連携」によって民間の資金やノウハウを活用することが、重要という認識のもといくつかの解決策を考えたいと思います。

株式会社日本政策投資銀行 産業調査部長兼
地域調査部担当部長 宮川 暁世

プロフィール：1997年日本政策投資銀行（現（株）日本政策投資銀行）入行。ロンドン大学、愛知知出身。都市・交通のシミュレーションに従事。専攻のモビリティビジョンを描くモビリティデザイナー。代表的な著書に、「MaaSが都市を変える、学芸出版（不動産協会賞受賞）」、「Beyond MaaS—日本から始まる新モビリティ革命（日経BP、共著）（交通図書賞優秀賞）」等多数。

15:10-16:40

日本鉄鋼業の事業戦略と
カーボンニュートラルへの対応

鉄鋼業のグローバル競争は激化している。とりわけ、地球温暖化対策など地球環境に対する社会的要請の高まりを背景として、カーボンニュートラルに向けての産業界の潮流は急激に変化している。今後、日本の鉄鋼業がこうした国内外の情勢変化に柔軟に対応して将来に亘ってグローバル競争を勝ち抜くための課題と方策について考える。

日本製鉄株式会社
参与 大阪支社長 矢ヶ部 昌嗣

プロフィール：1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵（現 日本製鉄（株））入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や世界・世界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講座を主管。趣味は全国の建築物（主として学校）巡り、東西の美術鑑賞、読書（日本の古典、国内外の傑作・推理小説）。

第4回 7/5(土)

10:40-12:10

現代の金融システム

金融は企業や個人が経済活動を行う上で不可欠な役割を果たしている。その一方で経済に悪影響を与えることもあり、悪者扱いされることも多い。講義では金融が個人の生活や企業活動にどう役立っているのかについて具体的にみたまで、どう活用していくことが望ましいかを考えてみたい。

ゴールドマン・サックス証券株式会社 取締役
共同チーフ・アドミニストレイティブ・オフィサー 吉村 隆

プロフィール：1985年日本銀行入行。IMF出向。ニューヨーク事務所次長、政策委員会常任委員を経て、2007年ゴールドマン・サックス証券株式会社 コンプライアンス部門統括 マネージング・ディレクター。2024年10月現職に就任。趣味：旅行、オペラ、ゴルフ。座右の銘：天降奇縁謀（てんがく縁はく）にて満ちず

第5回 7/12(土)

10:40-12:10

アントレプレナーシップに
ついて考える

近年はスタートアップ企業への就職なども増加し、起業というキャリアも一般化している。日本経済発展の観点からも、社会からのスタートアップ企業や起業家への期待が高まっている。起業家に必須のアントレプレナーシップは起業のみならず、今後社会で活躍するために必須の精神である。この講義ではスタートアップ企業創業の当事者が、その創業、成長のストーリーを中心にアントレプレナーシップ（起業家精神）について講義する。

株式会社ベイフワード
代表取締役 谷井 等

プロフィール：1996年神戸大学経営学部卒。1996年日本電信電話（株）入社。1997年から会社経営に身を置き、1社を楽天（株）、1社を上場への、ヤフー（株）に売却。会社の設立から買収、売却、海外企業との業務提携、株式上場、TOBなど、ほぼ全のコーポレートアクションを経験。2016年（株）ベイフワードを設立。2017年よりセミコン2年間海外を放浪。★本学出身者

13:20-14:50

ビジネス教養としての半導体

スマホやPCをはじめとした電子機器、自動車や電車、インターネット通信を代表とする社会インフラなど、半導体は今、私たちの身の回りであらゆるものに使われており、生活は半導体によって支えられているといっても過言ではありません。半導体とはどのようなものか、半導体市場規模の大きさや今後のAI時代に与える影響について、半導体が人々の生活や産業インフラに欠かせないものになるまでの進化の歴史とじっくりと学んでいきます。

Matter Venture Partners 日本代表
株式会社チップファースト創業者、前代表取締役社長 高乗 正行

プロフィール：1993年神戸大学理学部卒。2004年神戸大学大学院経営学修士（MBA）。1993年日産前住（現 双日）に入社。米国駐在等を経て、2001年チップファーストを創業。2004年東証マーズ上場。2011年世界最大の半導体商社に売却。2023年まで同社日本代表兼米国本社副社長。現在シリコンバレーのベンチャーキャピタルMatter Venture Partnersの日本代表。★本学出身者

第6回 7/26(土)

13:20-14:50

東アジア情勢と日本外交

日本をとりまく東アジアにおける安全保障環境の中で、日本の外交政策はどうあるべきか、考察する。

外務省
アジア大洋州局長

プロフィール：2025年1月より外務省アジア大洋州局長。国際法局長、国際文化交文審議官を歴任。在米大使館、在英国大使館に勤務経験あり。

金井 正彰

15:10-16:40

経済成長の条件とは

日本経済は長いデフレのトンネルから脱しつつある。この先、順調に回復軌道に乗ってけるのか。足元の企業収益、株価、金利、為替、賃金、通商といった経済事象から探りたい。海外に目を向ければ、米国で再びトランプ政権が誕生し、保護主義的な政策の志向が強まっている。経済活動に伴う環境への負荷を軽減するという阻害的な共通理解は揺らいでいる。安定的な経済成長を阻む要因についても考察したい。

読売新聞東京本社
経済部長

プロフィール：1993年読売新聞社入社。川崎支局、横浜支局、新潟支局を経て2000年から東京本社経済部。取材した業界は証券、自動車、造船機械、建設、不動産、銀行、流通、食品。取材機は国土交通省、財務省、日本銀行を担当した。財政の取材筋が長い。2022年6月から経済部。趣味は釣り、和歌山県出身。

小野田 徹史

第7回 7/26(土)

13:20-14:50

総 括

JAPIC 専務理事
丸川 裕之

プロフィール：1981年、鉄鋼製造メーカーである新日鐵（現 日本製鉄（株））入社。営業企画、総務、人事、秘書、環境、広報部門を歴任。他業界や世界・世界の方々と幅広く交流。2014年JAPIC入社。本連続講座を主管。趣味は全国の建築物（主として学校）巡り、東西の美術鑑賞、読書（日本の古典、国内外の傑作・推理小説）。

15:10-16:40

試 験

連続講義を受講した聴講者一人ひとりが、グローバル化をどのように捉え、どのような努力を今後していくべきか、また10年から20年後の将来（社会、自分）はどうなっているか、全員と具体的にディスカッションしていく。このことを通じて、自身のグローバル人材の在り方を再確認して貰いたい。

バリュースクール／産官学連携本部 准教授

鶴田 宏樹

プロフィール：神戸大学自然科学研究科修士。博士（農学）の学位も取得後、神戸大学共同研究開発センター（現・産官学連携本部）の助手、准教授を経て、2020年から現職。趣味は、音楽活動、音楽鑑賞。座右の銘は「己克己制全」。大阪府生まれ。★本学出身者